

タイ王国・チュラロンコン大学建築学部と タイの都市開発推進に向け、連携・協力に関する覚書を交換

令和 7 年3月 11 日(火)、独立行政法人都市再生機構(以下「UR 都市機構」)は、タイ王国(以下、「タイ」)のチュラロンコン大学建築学部(Faculty of Architecture, Chulalongkorn University)との間で相互協力に係わる覚書(MOU)※1を交換しました。

チュラロンコン大学はタイで最初の高等教育機関として 1917 年に設立された国立総合大学であり、近年ではタイ国内のみならず、アジアでもトップランクの研究機関として位置づけられています。

また、UR都市機構は、平成 30(2018)年に施行された「海外インフラ展開法」に基づき、日本企業の海外展開及び事業機会の創出を目的として、タイなどの東南アジア諸国やオーストラリアにおいて、TOD※2 などの都市開発を支援しています。

MOU の交換により、UR 都市機構は「日本での500以上の都市開発プロジェクトを実現してきた経験とノウハウ」※3、チュラロンコン大学は、「タイ屈指の研究開発力とタイの公共空間や都市計画に関する専門知識」を活かし、共同調査の実施や都市開発に関わる関係機関へのアプローチなどで相互協力します。タイが抱える交通渋滞、無秩序な都市開発(スプロール化)、車利用に伴う大気汚染などの都市課題の解決及び新たな都市開発の推進に向け尽力していきます。

また、その一環として、今後両者によるフォーラムの開催なども予定しています。



■(左)チュラロンコン大学建築学部 サラユット学部長・ ■チュラロンコン大学建築学部外観
(右)UR 石田理事長

【お問い合わせ先】

UR 都市機構 本社

海外展開支援部 事業支援第2課 佐武

045-650-0967

総務部 広報室 広報課(報道担当) 古檜山・大西

045-650-0887

■覚書交換の概要

1. 交換日:2025年3月 11 日(火)
2. 署名者:UR 都市機構 石田 優 理事長
チュラロンコン大学 建築学部 サラユット学部長

※1 MOU(Memorandum of Understanding 相互協力に関する覚書)

※2 TOD(Transit Oriented Development)とは

TOD とは、公共交通機関の利用を前提とした都市開発モデルのことです。日本では、初めて鉄道が敷設された 1872 年以降、鉄道網の発展と共に TOD が進められ、今日の都市の骨格が形成されてきました。

※3 都市開発の件数(都市再生:250プロジェクト以上、ニュータウン開発:281プロジェクト)

■UR 都市機構の海外展開支援業務について

新興国を中心とした世界の旺盛なインフラ需要を取り込むことは我が国の成長戦略の重要な柱であり、日本企業の海外展開を強力に推進するため、海外インフラ展開法(海外社会資本事業への我が国事業者の参入の促進に関する法律)が平成 30 年8月 31 日に施行されました。

これに伴い UR 都市機構は、海外の都市開発などにおいて、都市計画マスタープランの策定支援や技術支援、海外パートナーと日本企業との調整などを通じて日本企業が参入しやすい環境の整備を進めています。令和6年7月には、バンコク事務所をバンコク(シーロム)に開所しました。

UR都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>

——— 街に、ルネッサンス ———



UR 都市機構



UR 都市機構は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

